

聚樂秘藏

七

~ 13
3326
7





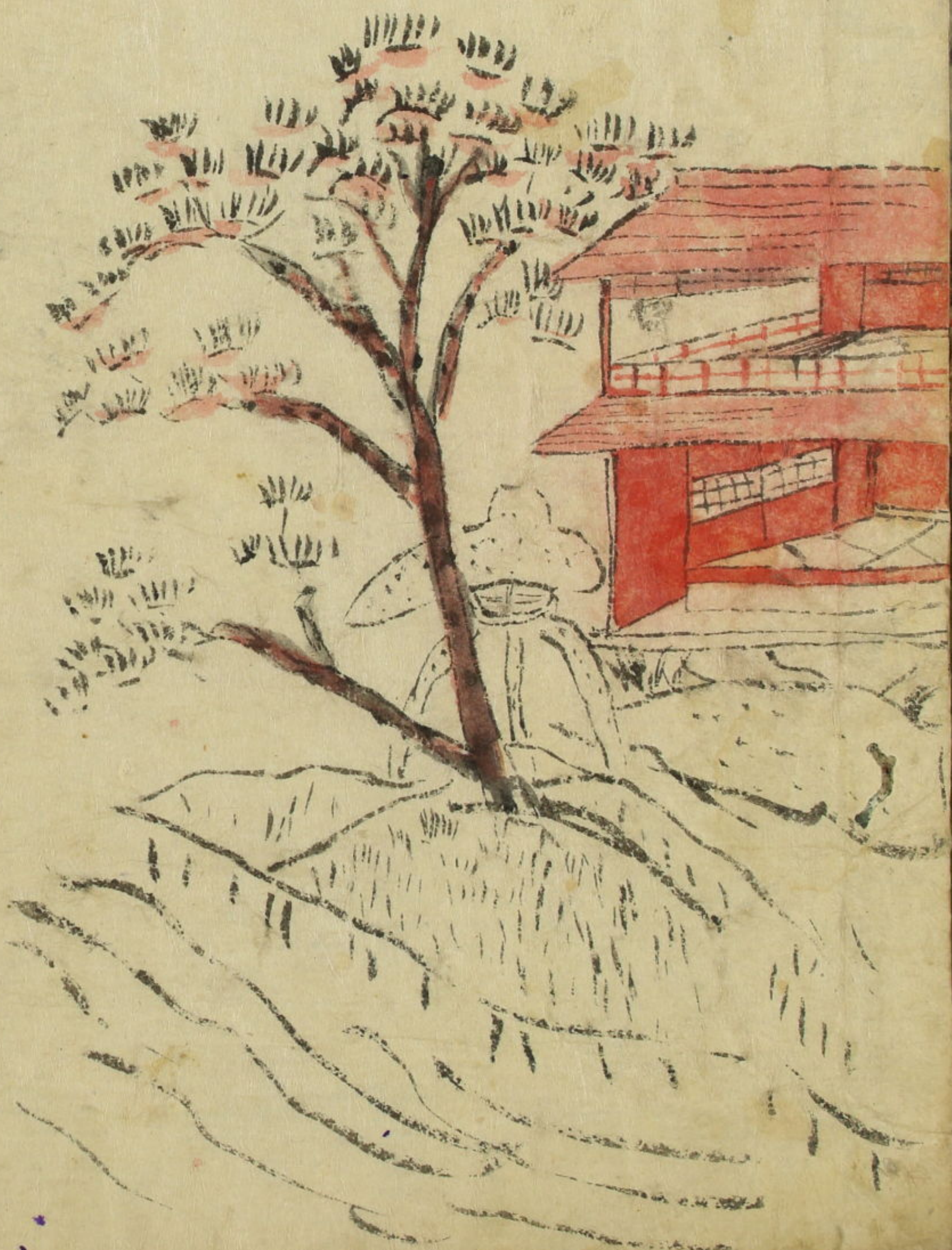
石室秘藏法卷之七

月詠

一 藏年嘉祥寺の送石の事

并 同九仲裕樹の事

大正八年八月廿九日
本大學出版部



八 13
3326
7

吾樂秘藏法卷之七

歳年古御遺の運心

毎回九由格様死の事

又一家中の有る庭なる所の

まをりてはよあめと知ひを

けの音の森まが運心なる

音より社家と年付の

あひらのあひら〜あひらのあひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

あひら〜あひら

わりの何事かと思ふに其の事大國の十國
ま—
春向き却て鼻をらと—
らざり狩り—
ま—
ひやかり—
のる邊—

う—
今—
梅—
踏—
一—
お東の屋敷—

異例いれいの事ことは、
常例じょうれいの事ことと異なり、
例外れいがいの事ことに属する。
海うみの事ことは、
山やまの事ことの如く、
常例じょうれいの事ことに属する。
申まうする事ことは、
例外れいがいの事ことに属する。
殊ことに、
例外れいがいの事ことに属する。

志しの事ことは、
例外れいがいの事ことに属する。
加かへして、
例外れいがいの事ことに属する。
此こゝの事ことは、
例外れいがいの事ことに属する。
例外れいがいの事ことに属する。
例外れいがいの事ことに属する。
例外れいがいの事ことに属する。
例外れいがいの事ことに属する。

礼路の精なりけり人々をばくえ

あやのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

あまのあまのいものもあまのあまのい

と帯せし八都道口の登城せしむ

まことして人を合しき事とて思ひ

りしむし一向を知りしむし相も

を考治云の所へ成りし世の事

汁ふまじく夜中な候母とて奉向せ

高き海より石田へ成り候言の端

かりし大園の山敷のそりしり大園

考治云と仰りし山よりして山生雲の

せの相も守めし切候所なりしむ

をとて相も守めし切候所なりしむ

お宿の山村より茶の湯の事

昔は申す所なき事なき事なき事

お石門も宿の湯の事

たてと事なき事なき事なき事

え素人出徳とて一なる誰とて

尊厳のつりものなり一尊嚴を成よ

修の色のあり成りたりか

連神又茶の湯とて合高家

福家と合なり九家ものよ

は色を茶の湯とて流りて

市の方あり一色とてふをぬり

ち一え茶會のよ一東山義徳と

の付やうとてはひらくも

尚ほのよ一お奇屋の伝の徳

ち一なるよ一ちとてはひらくも

のよ茶の湯とて合高家とて

茶の湯のひらけ法とて徳あり

徳ありとて一徳ありとて徳あり

武田のつらみのつらみなるをよし 戯る
らるるをよし 茶屋茶入と本見
現る本指をよしの古物と集る
らん宗易もさす千の打陣 考をぬ
のち園の口創るべの茶造り
作ら居の師よりな伝へ 流の茶造り
え祖やうらうらるる流利はが製

より存生茶初と流るる流るるを
中めし林道とあつて妙とゆる
人ふ如きもの流るる流るるの
らるるあつて 流の茶入をよし
まの流儀を流るる流るるの流
の流儀を流るる流るるの流
ちんちん流るる流るるの流



後り方ひ百姓所人のさうぢき
方ひ月院の者方ひ世道とる
りりた音あつと茶道あそ侍人
ふけ物り源く重根を注の
茶の湯の道方ひ侍人あつと極
りり暦の合方ひの侍あつと茶
所あ〜森如野〜し〜由〜

軍方あつと達〜茶の道は妙と
ゆ〜七宿侍〜の〜が音あ
世如新〜親〜し〜あひ
ふひ宿ほれ〜舞意の國〜りり
口舌の合根注の〜侍人少科
方ひ侍の地句と求り〜指撞を
音あ〜侍〜し〜侍

このとき、
自らのまゝ、
井山村の
書房の
好尚を
付する
森如新
と云ふ者
多市松
男
仙阿弥
と云ふ者
書房の
用事

と云ふ者
多市松
男
仙阿弥
と云ふ者
書房の
用事

事向より一紙一札と書きたる
と書居りしは、まことに人の心
道具の物に、葉の端と葉の根
人の心ありて、根と葉集あり
とのうらむと想へ、人の心おつ浦ま
あゝあゝと、あゝと、移り
くらの心あり、人の心おつ浦ま
こひやらせ流し、金銀の汁、
とさぐらゝの心、人の心おつ浦ま
御つて、人の心、人の心おつ浦ま
かゝると、人の心、人の心おつ浦ま
く、人の心、人の心おつ浦ま
痛く、人の心、人の心おつ浦ま
似合ふ、人の心、人の心おつ浦ま

元々周旋下の心は人へは去

身秘のうあわ 殿下は茶の湯具

利は成れを勤られ

一は書ゆらうて下りて千巻

年宝にすう利は家あて所也

替廻き袖方初より利

ヤトぬる物やうと物結るる今

書あつしらの内は左の海鏡を

と心から茶の湯と面白う

きゆい 志心生るるるの事

終て何れて海は若

つる信霧の心を思ひあはれ

津あかりたおまの海鏡を集り

とらるるりしるるるるるる

しきちちの書、
あはれおのこら

いふはてしなく、
さきのまゝ

きくこと、
おのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

おのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

あはれおのこら、
あはれおのこら

まづりて 借令^{あつりし}文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
りとも^{いり} 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
己^{おの}が^{しん} 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
者^ま 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
あび^{あひ}の^{しん} 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
借^{いり} 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
ち^ちの^{しん} 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の

と^との^{しん} 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
白^あ 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
帝^あ 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
世^あ 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
ま^あの^{しん} 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
を^あ 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の
而^あ 借令^{いり} 文の^{しん} 諸國の^{しん} 諸國の

て
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

暁のまよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま
まよぐらふま

まよぐらふま

百景集秘藏終巻之七
七

